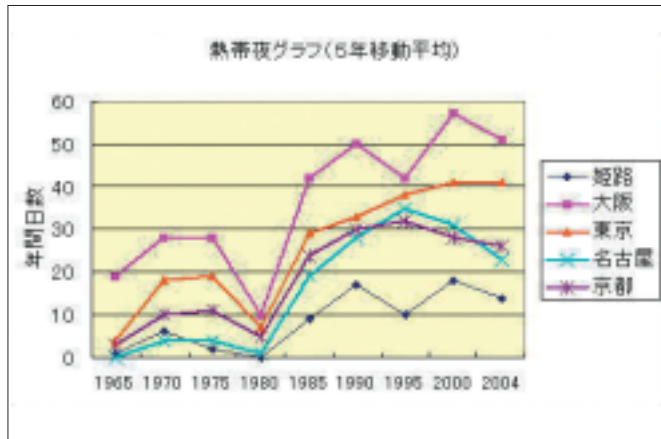


なぜ、屋上緑化が必要なの？

今、まちなかの緑はどんどん失われています。

ビルや店舗、道路や駐車場といった経済や生活に利便な人工構造物の建設は、つつい緑化より優先されがちで、なんらかの歯止めがなければ、緑地はどんどん減少していきます。そして、下のグラフに見られるように、ヒートアイランド現象は年々顕著に現れるようになってきています。

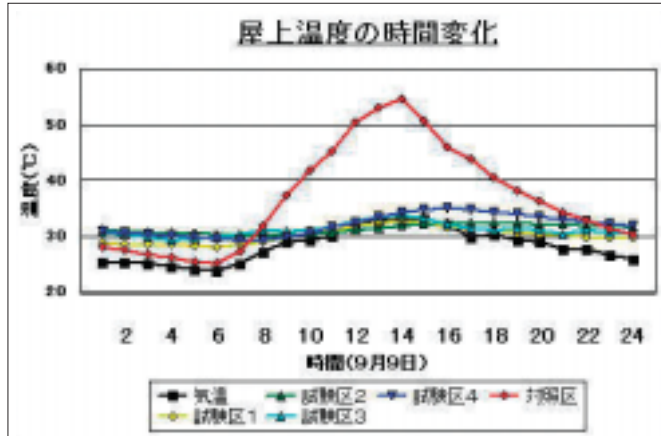
京都は全国の都市の中でも大阪、東京に次ぎ、名古屋とほぼ同日数で熱帯夜が多くなっています。



こうした状況は、都市の温度が上がることに
よりさらに冷房使用が増加し、排熱の増加、
エネルギー消費の増加による温室効果ガス
の発生に拍車をかけるという悪循環を引き
起こし、温室効果ガスの増加による温暖化
と人工排熱の増加の「二つの温暖化」とい
う現象を引き起こしています。

しかしながら、まちなかに緑のエリアを広げ
ていくことはなかなか簡単にはいきません。
そこで、建物の屋上や壁面の緑化を進め、周
辺の緑や水面とのつながりにより、まちなか
の温度を下げることが必要なのです。

屋上緑化の効果とは？



夏季においては建物の蓄熱とその放出を抑制し、緑化した面ではコンクリート面より約23℃低くなり、ヒートアイランドの抑制を図ることができるとともに、階下の室温を夏季においては2~3℃下げ、冬季においては1~2℃高く保つなど、冷暖房エネルギーの削減によるCO2削減を図ることができます。

京都府保健環境研究所でのデータ(2003.9.9)

都市環境の改善効果

ヒートアイランド現象の緩和
空気の浄化や騒音の低減
都市の自然性の向上
都市のアメニティの向上

人間に対する生理的・心理的效果

やすらぎ空間の創出(鎮静効果)
身近な情操教育・環境学習の場の創出



建物に対する経済的效果

省エネルギー(夏季の温度上昇の軽減・冬季の保温)
温度変化の緩和による耐久性の向上
酸性雨や紫外線による建物の劣化防止
火災による延焼防止
イメージアップや集客力向上

屋上緑化の
主な効果